

令和5年度  
興南中学校  
入学試験問題

前期

国語

令和5年1月7日（土）実施 45分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】次の文章Ⅰ・Ⅱは、沖繩でことわざのようなものにあたる「黄金言葉」を説明をした文章である。Ⅰのはじめに示される語句が「黄金言葉」であり、後の文章がその説明である。これを読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法で解答した場合は採点されないため注意せよ。

Ⅰ 他人<sup>チユ</sup>んでい いらわ、自分<sup>ドウ</sup>んでい 思<sup>ウム</sup>り

他人といったら、自分と思え。

他人のうわさや悪口を聞いたら、それを人ごとと思つて聞き流してはいけない。自分にも同じあやまちや欠点がないか考えてみよう。うわさ話には二通りあつて、他人についての話の他に、こちらにたいする遠まわしの忠告<sup>ちゆうこう</sup>の場合もある。短所<sup>たんじょ</sup>というのは直接本人に言う<sup>①</sup>と傷つくもの。そのため話し手は相手を傷つけまいと配慮して、他の人の話をよそおいながらやんわり指摘<sup>してき</sup>することがある。だから、誰かが他人のうわさ話をするのを聞いたら、ひよつとしたら自分のことかしらと、ふりかえつてみる必要がある<sup>③</sup>ということ。そのような心得を持つよう述べたことわざ。大人同士の間でよく使われる。

Ⅱ 《 》

早くしなければとあせつて<sup>④</sup>パタナイパタナイやったところで、必ずしも良い結果が得られるとは限らない。急いでいるときこそ、落ち着いて冷静に対処<sup>たいしよ</sup>せよという教え。立ち止まつて考える余裕を持ちなさいということ。落ち着きのない子どもや大人を落ち着かせようと注意する場合に用いられる。

「アワティーン」とはここでは「急ぐ」の意。共通語の「慌てる<sup>あわ</sup>(うろたえ騒ぐ)」の意ではない。沖繩の人が「あわていれー」と言ったら「急げ」の意だが、共通語の「慌てる」という動詞は無意志動詞なので、「慌てろ」という命令形にはなれないという違いがある。<sup>\*</sup>本土の 「と同意のことわざ」。

【 仲村優子『黄金言葉ウチナンチュが伝えることわざ 200編』琉球新報社より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

〈語注〉

\* 本土 沖縄県外の他道府県のこと。内地と同じ。

問一 傍線部①「傷つけまい」とはどのような意味か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 傷つけない    イ 傷つけない    ウ 傷つけられない    エ 傷つけられる

問二 傍線部②「やんわり」と同様の用いられ方をしている文として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 彼の行動はやんわりとしている。    イ 人の話はやんわりと聞くべきだ。

ウ 卵焼きがやんわりと焼けた。    エ 彼の欠点をやんわり注意した。

問三 傍線部③「振り返ってみる必要がある」のはなぜか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 他人のうわさは自分に関係なさそうな内容でも、将来の自分に役立つものとして聞いておいたほうが、自分の利益につながる可能性があるから。

イ 他人のうわさをしているようではあるが、自分に対して注意してほしいことを述べている場合があり、自分のことを振り返ることができるから。

ウ 他人のうわさをする人は、自分のこともうわさしていることが多いため、自分のこともうわさされるかもしれないと注意する必要があるから。

エ 他人のうわさは本当かどうか分からないため、気にする必要はなく、むしろ自分の行動を自分自身で振り返るほうが自身にとって有益だから。

問四 Iの「他人んできい いらわ、自分んできい 思り」と同じような意味を持つことわざとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 人のうわさは七十五日    イ 耳にたこができる    ウ 人の振り見て我が振り直せ    エ 犬も歩けば棒に当たる

問五 傍線部④「バナイバナイ」は共通語でいう「せかせか」の意味をもつ言葉である。このような表現を何というか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア オノマトペ    イ 擬人法    ウ 倒置法    エ 体言止め

問六 傍線部⑤「必ずしも」という言葉のかかる部分を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 良い    イ 結果が    ウ 得られるとは    エ 限らない

問七 傍線部⑥「あわていれー」の用いられ方として最も適当な文を次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 集合時間の五分前で「あわていれー」と言われたので、走って集合場所に向かった。

イ 試合終了の五分前に「あわていれー」と言われたので、指示が理解できず混乱した。

ウ 集合時間の五分前で「あわていれー」と言われたので、集合場所を再度確認した。

エ 試合終了の五分前に「あわていれー」と言われたので、丁寧なプレーを心掛けた。

問八 傍線部⑦「無意志」のように、打消しの漢字「無」が付くことで反対の語をつくることができる。これと同様に、1～3の□に入るものとして最も適当なものを、「非・不・未・無」から一つずつ選んで答えよ。

1 □欠席    2 □親切    3 □提出

問九 IIの□に入ることわざとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 急がば回れ    イ 転ばぬ先の杖    ウ 果報は寝て待て    エ 二兎追うものは一兎も得ず

問十 IIの《 》に入る「黄金言葉」として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 言ー破んらー 聞ち直し（言い間違いは聞き直せ）    イ 童ー習しむん（童は習わせもの）

ウ あわていーる中 落てい着き（急ぐな落ち着け）    エ 家習る 外習（家での習いが外での習い）

【二】次の文を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法で解答した場合は採点されないため注意せよ。

### 自分の子供を何と呼ぶ？

私たちは毎日の生活の中で自分たちが使う言葉をあまり意識しないのですが、でもふとしたことがきっかけになって、どうしてそうなのだろうと考え込んでしまうことがよくあるものです。ここで取り上げる「私たちは日常生活の中で相手を一体どんな言葉で呼んでいるのか」というテーマも、改めて考えてみるとそこには普段気付かない面白いこと、フシギなことが続々と出てきます。

そこでまず手始めに私たちは家の中で、いつも家族同士どんな言葉を使って互いに話をしているのかを考えてみましょう。

今多くの家では子供は父母と話すとき、〈お父さん、お母さん〉あるいは、〈パパ、ママ〉といった言葉を使うのが普通だと思います。これより数は少ないのですが〈父ちゃん、母ちゃん〉そして〈お父様、お母様〉のような言葉も一部では使われています。その他にも色々な用語、A 〈親父、お袋〉などが聞かれますが、これら全ては形こそ多少異なり、言葉のニュアンスもいくらか違っています。とはいえ、どれもみなその中心的な意味として父概念、母概念\*2がいねんを持っているものです。そこで次のような一般論がなりたちます。

「今日日本の標準語（東京方言）では、子供が父母に向かって話すときには、父概念または母概念を含む言葉（親族用語）を使うことができる」。

これを読まれて、学者って人間は、なんて下ら**b**ないことをもったいぶった言い方言うのか、父親だから〈お父さん〉、母親なら〈お母さん〉と言うのは当たり前で、何のフシギも面白いこともないじゃないかと言われる方がきつといらつしやると思います。

でも**事**<sup>①</sup>は**そう簡単ではないのです**。父親だから〈お父さん〉、母親だから〈お母さん〉と呼べるのだと言うならば、親が自分の息子や娘を、息子だから〈息子〉、娘だから〈娘〉と呼べるかと言うと、何とこれはできないのです。いや息子、娘に限りません。

自分の孫にも〈孫ちゃん〉などと話しかけることができないのです。子供たちの間でも兄や姉は弟や妹に〈弟、妹〉を使って話しかけることはできません。

このような点を、それならばお祖父さんやおじさんに対してはどうだろうか、甥や姪に向かっては何と言っているのかと詳しく調べてゆくと、日本人の親族内部での相手を指す言葉の使い方には、何とも面白い整然とした言語社会的な決まりがあることを、私は見付けたのです。

## 家族内で使う言葉とは

### 一、親族用語が使える場合

私たちは相手が自分より目上(殆ど<sup>ほとんど</sup>)の場合には年上)の親族のときは、その人を親族用語で呼ぶことができます。そこで父母、祖母、おじおば、そして兄と姉には、実際に用いる語形には色々と変化はありますが、〈お父さん、おばさん、兄さん〉といった具合に、親族概念を含む言葉を使って話せるのです(これまでの日本社会では実年齢と親族内の地位が衝突したときは、一般に親族の地位がユウセン<sup>ユウセン</sup>しました。たとえば以前は一家に子供が沢山いたので、父の年少の弟や妹が父の子である自分より年下であることがよくありました。この場合は自分より年が若くてもおじさんおばさんと呼んだものです。また兄のお嫁さんが自分より年下の場合でも姉とみなしてお姉さんと呼ぶことが普通でした)。

これとは反対に自分より目下(年下)のものには親族用語は使えません。だから父親は息子に向かって「オイ息子(または倅<sup>せがれ</sup>)」などと呼びかけることができないし、兄さんは妹に向かって「妹ちゃん遊ぼうよ」とは言えないのです。

## 二、名前で呼ぶことができる場合

私たちは自分より目上の親族に向かっては、その人の名前を原則として言うことができません。これとは反対に目下のものはみな名前で呼ぶことができます。しかし年の近い姉妹の場合、妹が姉を名前で呼ぶことは近年増えているようです。

**B** アメリカなどでよく見られるような、自分の父母を名前で呼ぶ人は日本にはまだいないと思います（十年近く前に若くしてなくなられた国語学者の徳川宗賢氏は、あるとき私に徳川家では色々な変わった習慣が残っていて、自分たちは母親に向かって「子さん」と名前で呼んでいますと話されたことがあります）。

## 三、<sup>\*4</sup> 人称代名詞が使える場合

自分より目上の親族には原則として「あなた、君、お前」などのいわゆる人称代名詞を使うことはできません。もし自分の父親を息子が「お前」などと呼ぶことがあれば、その親子関係はすでに破綻<sup>\*5</sup>していると考えてよいでしょう。しかし母親に向かって成人した娘が「あなた」を平気で使う例はかなり前からしばしば報告されています。

また兄や姉と話すときも人称代名詞だけでなく名前も使えないので、結局親族用語を使うこととなります。<sup>④</sup> これに対して目下のものにたいしては全て人称代名詞が使えます。ところで兄や姉がそれぞれ複数いるときは、区別のため太郎兄さんとか良子姉ちゃんなどと名前をつけることができますが、名前だけでは駄目なのです。

このように見てくると、現代の標準語では親族用語、名前、そして人称代名詞の三つのうち、<sup>\*6</sup> 対称詞として目上に使えるのはなんと「お父さん、お祖母さん、お兄さん」のような親族用語だけだということになります。この驚くべき事実は私が三十年ほど前に明らかにするまでは、そのことをはっきりと指摘した人はいませんでした。そのわけは現象が余りにも身近で<sup>\*7</sup> 卑近なものであったた

め、誰も改めて注意を向けなかったからでしょう。親に向かって人称代名詞を使うことは出来ないなどと誰も意識してはいなかったのです。

ところでこの前の戦争のとき、国民のシキを高める目的で、いろいろな勇ましい歌が作られラジオなどでよく放送されました。その一つに「父よあなたは強かった」(福田節作詞、明本京静作曲、一九三九年)という歌がありました。この歌を聴いた私の家では言葉遣いがおかしいのではと家族同士で話題にしたのを覚えています。遠い戦地にいる父親に呼びかけ励ます内容の歌ですが、「父よ」という呼びかけは日本語としてはなんとも異様で、その上「あなた」と自分の父親に話しかけることもありえないというものでした。

また、ロックミュージックが流行った頃、私は知りませんでした。「スターリン」というバンドの遠藤ミチロウという音楽家が「父よ、あなたは偉かった」という曲を作って演奏した由です。この曲名が先に触れた「父よあなたは強かった」を意識したものでしょうか。はわかりませんが、このように現代の日本では、ある人が自分の親に呼びかけたという近代的な気持ちを具体的に親族用語や代名詞で表現しようとする、日本人にはまだそれに対応する言語心理上の用意が出来ていないための違和感が、私たちのような世代の人間には感じられるのです。

【鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】  
(語注)

- \*1 ニュアンス 色・音・調子・意味・感情などのごくわずかな差異。
- \*2 概念 大まかな意味内容。ここでの「父概念」は「父という意味」である。
- \*3 言語社会学 ある言語と、それをを用いる社会の関係性を研究する学問。
- \*4 人称代名詞 名前以外で人を指し示す言葉。「わたし」「ぼく」「あなた」「かれ」などのこと。



問四 傍線部②「実年齢と親族内の地位が衝突したとき」の具体例として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。ただし、本文中に取り上げられた具体例のことではないため注意せよ。

ア 母親の妹が自分より少し年上だった時に、「お姉さん」と呼ぶ。

イ 父親の弟が自分より年下だった場合には、「おじさん」と呼ぶことはできない。

ウ 自分の姉が自分より年上の男性と結婚した時に、その男性を「お兄さん」と呼ぶ。

エ 祖父母に自分より年下の男の子が生まれたときには、その生まれた子を「おじさん」と呼ぶ。

問五 傍線部③「原則として」の表現から分かることとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 目下の人に対しては名前で呼ぶことができるということ。 イ 自分より目上の者に対しては親族用語が使えること。

ウ 年下であっても父親の弟はその人が目上の者になること。 エ 目上の者を名前で呼ぶ徳川家のような例外もあること。

問六 傍線部④「これに対して」とあるが、「これ」の内容として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 成人した娘が母親のことを「あなた」と呼ぶこと。 イ 年長者に向かって「お前」や「あなた」と呼べないこと。

ウ 自分より目上の親族に対して「あなた」と呼べないこと。 エ 父親に対し息子が「お前」と呼び掛けるようなこと。

問七 傍線部⑤「違和感」を感じている筆者の説明として最も適当なものを、筆者が一九二六年生まれであることをふまえたうえで、次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 現代の日本人は外国人と同じように親に代名詞を用いて呼び掛けるようになってきている。そのことが「父」と呼び掛けていた世代である筆者にはしっくりこない。

イ 現代の日本は親に名前で呼び掛けたらという近代的感覚が当然の状況になっている。これに対し筆者のように父親に親族用語しか使わない人からは変に感じる。

ウ 筆者が挙げた具体例に「父」と呼ぶ例がないように、筆者の世代は父親に対し「父」とも「あなた」とも呼ぶことがない。そのため若い世代が使うと聞きなれない感覚がある。

エ 言葉を研究している筆者には、日本語で父に呼び掛ける言葉は存在しないという感覚が当てはまらない。だから若い世代が心理的に用意できていないことが全く理解できない。

問八 次の会話文はこの文章を読んだ児童が「言葉について気になったこと」について考えたことを発表するため、メモを作成しよ

うと中学一年生の兄に相談しているものである。これらを参考にして、後の問いに答えよ。

たけし…きよし兄ちゃん、実際に日本語以外では目上の親族をどう呼ぶのかな。

きよし…それなら、ぼくの英語の教科書を見てみよう。

(教科書の一部)

ある日の英語の授業で、朝美は兄の卓也 (Takuya) についてスピーチします。

Hello, everyone. Look at this picture.  
This is Takuya, my brother. He's twenty years old.

日本語訳：こんにちは、皆さん。この写真を見てください。これは私の兄の卓也です。彼は二十歳です。

Meg: Oh, it's hot in this room.

Can I turn on this fan?

Dad: Sure. No problem.

Meg: Dad, can you help me with my homework?

Dad: All right. Just a moment.

日本語訳

メグ：ああ、この部屋の中は暑いわ。  
このせん風機をつけてもいい  
ですか。

父：もちろん。大丈夫だよ。

メグ：お父さん、あなたは私の宿題を  
手伝えますか。

父：いいですよ。ちょっと待ってね。

たけし..お兄ちゃんを紹介するときに「彼」と言っているね。お父さんにも「あなた」と言っているよ。  
きよし..そうだね。でも、話しかけるときは「お父さん」と話しかけているね。

たけし..僕たちはいつでも「お父さん」と呼んでいるよね。よし、文章との違いをメモに残しておこう。

(発表用メモ)

○英語の教科書  
兄を呼ぶとき  
・彼  
・「兄さん」と付けない。

父を呼ぶとき  
・呼びかけるときは「お父さん」と呼ぶ。  
・話の中では「あなた」と呼んでいる。

○日本語と同じ部分

・

○日本語と違う部分

・

【教科書『NEW HORIZON english course 1』東京書籍 ※訳文は出題者によるもの】

問 メモの空欄 、に入るものとして最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

同じ部分

ア 日本語でも英語でも、兄が何人いるかはわからないから「卓也兄さん」と呼ぶ必要がない。

イ 英語で兄を呼び捨てにする影響で、日本でも兄を呼び捨てにするのが一般的になってきている。

ウ 日本語でも英語でも、父親に「お父さん」や「Dad」のような親族用語で呼びかけることができる。

エ 日本語でも英語でも、兄のことを「彼」のような代名詞で呼ぶことができる。

ろ 違う部分

- ア 英語では父親を親族用語だけで呼ぶが、日本語は父親を名前と親族用語で呼ぶ。
- イ 英語では「お父さん」と呼び掛けるが、日本語ではそれはできない。
- ウ 英語では「卓也」と呼ぶが、日本語では親族用語で呼ぶのが普通である。
- エ 英語では父を「あなた」と呼び、日本語でも「あなた」とは呼ぶことができる。

【三】次の文章は、はらだみずきの『サッカーボーイズ 再会のグラウンド』の一節である。主人公の武井遼介が所属するサッカーチーム「桜ヶ丘FC」では、六年生の卒団式が行われた。そこで、遼介は先輩たちから代々引き継がれるキャプテンマークを受け取った。以下の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>りようすけ</sup>に記入すること。なお、指<sup>さし</sup>示された表記方法で解答した場合は採点されないため注意せよ。

この日、新六年生チームは、隣町の小学校のグラウンドで、そこを基盤<sup>きばん</sup>に活動するサッカーチームと練習試合を行なった。試合後、<sup>①</sup>選手<sup>せんしゅ</sup>たちは峰岸監督<sup>みねがし</sup>を囲むようにグラウンドに扇形<sup>おひぎ</sup>をつくって腰をおろしていた。

練習試合は連敗。選手たちは、監督から長々と説教を聞かされたあとで、今年度のキャプテンを新たに自分たちで決めるように言い渡された。四年、五年とチームのキャプテンを務め、「六年生を送る会」でキャプテンマークを受け継いだ武井遼介にとって、それは監督からの思いがけない提案<sup>②</sup>だった。

遼介のまだ紅潮<sup>べにうら</sup>している頬<sup>か</sup>には、短く刈<sup>か</sup>った髪から試合中に流れ落ちたいく筋<sup>すぢ</sup>もの汗の跡が残っていた。細められた切れ長の目は、<sup>\*2</sup>岐路<sup>きろ</sup>に立った青年のように厳しく中空をにらみつけていた。形<sup>かたち</sup>のよい眉<sup>まゆ</sup>と、低い鼻、薄い唇<sup>くちびる</sup>は、芯<sup>しん</sup>の強さをうかがわせたが、まだ十一歳にすぎない少年の顔には、自信の揺らぎと、プライドを傷つけられた戸惑<sup>とまぜ</sup>いとが、<sup>A</sup>無防備<sup>むぼうび</sup>なまでに浮かび上がっていた。膝<sup>ひざ</sup>を抱えたエンジに黒の縦縞<sup>たてじま</sup>の背番号10番の左腕<sup>ひだりうで</sup>には、今まさに奪<sup>うば</sup>われようとしている、彼にとって特別な思い入れのある黄色いキャプテンマークが巻かれていた。

「だれがキャプテンをやるんだ？」

もう一度、監督の声が響いた。今度は少しだけ言葉にいらだちが混じった。

沈黙のあとに、それでもキャプテンにまず立候補をしたのは、武井遼介だった。キャプテンマークが巻かれている左手を静かに挙げた。チームに何かが起こったとき、いつも最初に動き出すのがこれまでの彼の役割だった。遼介は小学生の低学年の頃から強いリーダーシップを発揮し、チームを引っ張ってきた。ポジションはミッドフィルダーだったが、試合では中盤といわず前線から自陣ゴール前まで、果敢なプレーで顔を出した。だから、いつも試合が終わるとチームで一番汗を流していたし、試合に負ければ、その汗と一緒にやし涙をひとり流していた。

チームが得点を奪われ仲間がうつむけば、最後まであきらめると声をかけ、チームを鼓舞した。ボールがタッチを割ってチームのスローインになれば、積極的にボールをもらいに走り寄った。ペナルティーエリアで味方が倒されPKを得れば、だれの指図を受けなくとも、当然のように自らボールをペナルティースポットに運び、ゴールを決めた……。

少し間を置いて、遼介が手を上げるのを背後で見ていた背番号11番の少年も動いた。星川良は、テーピングされた膝を抱えていたが、その上に肘を突くようにして手を挙げた。サラサラの髪を少し伸ばした今風の小学六年生。身長はそれほど高くなかったが、四年生の頃から頭角を現し、チームの点取り屋としてフォワードに定着した。急成長の理由は、クラブの練習とは別に、ひとり黙々と努力を重ねたからにちがいがなかったが、もともと素晴らしい運動能力の持ち主で、そのスピードはチームでも群を抜いていた。ドリブルで抜け出し、ゴールを重ねるたびに自信をつけ成長していった。

「リョウ！」

峰岸監督が叫ぶと、グラウンドのふたりの選手が同時にベンチに顔を向けた。

ミッドフィルダーの武井遼介、そして、フォワードの星川良。いつしか、ふたりはクラブのコーチたち、保護者、近隣のチームのコーチや選手にまでも、桜ヶ丘FCの「ダブルリョウ」と呼ばれるようになった。

(中略)

遼介と良。去年ふたりは、地域の選抜チームのメンバーに選ばれ、秋に行なわれた郡市選抜の県大会で準優勝を経験した。その大会で、星川良は全試合にツートップの一角として先発で出場し、5得点の活躍を見せた。一方、武井遼介は競争相手の多いミッドフィールダーでのポジション争いに敗れ、出場機会すらほとんどい。選抜チームの一員として銀メダルと賞状を持ち帰ったものの、遼介にとっては不本意な大会に終わった。

選抜チームの大会で、はじめてベンチを経験した遼介は、**ろ**自信を失ってチームに戻ってきた。チームの主役の座は、それ以降は星川に奪われ、自分のチームでもかつての輝きを失いかけていた。体の成長と共に、以前はできたはずのプレーが思うようにいかない感覚に陥<sup>おち</sup>っていた。FWの星川と攻撃的MFの遼介では、ポジションもちがえば、持ち味もちがったが、周囲の人間の多くは、「遼介は良に追い越された」という言い方をした。それは少なからず遼介の耳にも届いていたし、本人自身もそう感じていた。「よし、このふたりだな」

峰岸監督はつぶやいた。「それじゃあ、多数決で決めよう。ふたりは反対側のゴールポストを向いている」

武井遼介と星川良は、みんなから少し離れた場所で、チームに背を向けて腰をおろした。ふたりとも無言だった。

「キャプテンには、星川がよいと思うもの……」

監督はどちらがキャプテンにふさわしいか、チームメイトに挙手をさせた。

「それでは、遼介がよいと思うもの……」

しばらくの静寂のあと、峰岸監督がふたりのところにやってきて結果を告げた。

「新キャプテンは、星川。遼介は、副キャプテンをやってくれ」

監督は遼介をねぎらうように、その肩にそつと手を置いた。

③ 遼介はうなずきもせず、さつきまで走り回っていた砂塵さじんの舞う早春のグラウンドを見つめていた。監督が決めたのではなく、チームメイトが自分でなくキャプテンとして星川を選んだ。その事実を受け入れるには、遼介にとって少し時間が必要だった。ただ、そうなるような気がしていた。おそらく、監督はそうしたのだと遼介は感じた。最後の年にキャプテンを変え、チームを変えたかったのだ。星川中心のチーム作りをしたかったのだ、と……。

【はらだみずき『サッカーボーイズ 再会のグラウンド』角川書店より一部抜粋 ※問題作成のため一部改変】

〈語注〉

\*1 紅潮 顔に血がのぼって赤みをおびること。 \*2 岐路 わかれ道。二また道。

\*3 ポジション スポーツで競技中に選手が立つ位置。ミッドフィールダー(MF)はフィールドの中央で守備も攻撃もする選手の位置。フォワード(FW)は主に攻撃をする選手の位置。

\*4 果敢 強い決断力で思い切って行動する様子。 \*5 鼓舞 仲間をほげますこと。

\*6 タッチ サッカーコートのこと。「タッチを割る」とはボールがコートの外に出ること、そうすると相手のボールとなってスローインとなり、ボールをコートに投げ入れることになる。

\*7 ペナルティーエリア サッカーでゴール近くの長方形で囲まれた場所。その場所で反則をするとPK(ペナルティーキック)というゴールに近い位置(ペナルティースポット)からシュートを打つ機会が与えられる。

問一 二重傍線部A「無防備なまでに」、B「頭角を現し」の本文中での意味として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

- |   |         |   |           |   |           |   |         |   |         |
|---|---------|---|-----------|---|-----------|---|---------|---|---------|
| A | 無防備なまでに | ア | 油断しているように | イ | 誰にもわかるように | ウ | 攻撃的な様子で | エ | がまんできずに |
| B | 頭角を現し   | ア | 才能が人より目立つ | イ | 怒りが抑えられず  | ウ | 本性を現す   | エ | 人に厳しくする |

問二 本文中の **い**、**ろ** に当てはまるものとして最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えよ。

**い**      ア 手に入れた      イ 無くならなかった      ウ 変わらなかった      エ 与えられなかった

**ろ**      ア がっかり      イ 少しも      ウ まるで      エ すっかり

問三 傍線部①「選手たちは峰岸監督を囲むようにグラウンドに扇形をつくって腰をおろしていた」とあるが、この時の状況として最も適当なものを次のア～エから選び記号で答えよ。

ア 選手も監督も座り、監督を生徒たちが取り囲んでいる。      イ 選手たちが座っていて、監督の前で整理している。

ウ 監督は立っており、選手も監督の前方に立っている。      エ 監督を中心として、生徒は半円形を描くように座っている。

問四 傍線部②「思いがけない提案だった」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 自分たちでキャプテンを決めるということは、その段階から遼介自身のキャプテンとしての能力を試されているものだと感じ取ったから。

イ 監督から長々と説教をされた後だったので、新チームのキャプテンもそのまま監督が自分の考えで決めてくれるものだと考えていたから。

ウ 四・五年生でもキャプテンを務め、先輩からもキャプテンマークを受け取った遼介は、当然自分がキャプテンに選ばれると思っていたから。

エ 自分のキャプテンの地位は揺るがないものと考えていたので、チームメイトが自分以外の人間を選ぶことを予想すらしていなかったから。

問五 傍線部③「遼介はうなずきもせず、さつきまで走り回っていた砂塵の舞う早春のグラウンドを見つめていた」とあるが、このときの遼介の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア チームメイトがキャプテンに星川を選んだ事実をすぐには受け入れられずにいる。

イ 勝手に自分がキャプテンになると思っていたかんちがいを恥ずかしく感じている。

ウ 監督がキャプテンの決め方を投票にしたことに不満を持ち、反抗的になっている。

エ 監督のねぎらいの仕草に感動して、副キャプテンとして頑張ろうと決意している。

問六 傍線部④「そうしたかった」とあるが、その内容として適当なものを十六字で特定し、そのままのかたちで抜き出せ。

問七 本文中の□で囲まれた部分の描写からわかることとして、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 遼介がサッカー選手としてどれほど素晴らしい能力を持っているかを示している。

イ 遼介がどれほど自分一人でプレーしていて、キャプテンにふさわしい人物ではないことを示している。

ウ 遼介がチームメイトに頼らずに自分勝手にプレーしていたことを示している。

エ 遼介がこれまでどのようにチームを引っ張り、キャプテンにふさわしい行動をしてきたかを示している。

問八 以下の会話はこの作品を読んだ生徒どうしの会話である。会話を読み、空欄□は□に当てはまる発言として考えられるものとして最も適当なものを、後の（選択肢）のア～エから選び、記号で答えよ。

島袋…この部分は作品の冒頭部分だけど、この話のタイトルは「サッカーボーイズ 再会のグラウンド」なんだよね。

宮城…このタイトルでもわかるように、サッカーをしている小学生、遼介たちの物語だね。

島袋…サブタイトルを考えるとこの後の展開はどうなると思う？

宮城…は

島袋…確かにそうだね。タイトルでその後の展開もある程度は予想できるね。

(選択肢)

ア 「再会」とあるので、長年別れていた人と会うシーンが入るのではないかな。そのためには別れのシーンも必要だね。

イ この後はチームとしても遼介としても成長していく感動的な物語になるのかな。だから、最後は大会で優勝すると思うよ。

ウ 「再会」とタイトルにもあるから、遼介が再びキャプテンになるのかな。そのためにはチームが負ける必要があるね。

エ 「再会」とあるからこの後はチームが一つにまとまって強くなるのかな。そのために、新しいメンバーも加入すると思うよ。

問九 この文章の表現の特徴として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア セリフを監督の発言のみに限定することによって、主人公の無口な性格が読者に伝わるように工夫されている。

イ 目まぐるしく変わる風景を描くことで、主人公の心情が激しく変化していく様子を分かりやすく表現している。

ウ セリフの中で心情を細かく描くことで、読者が主人公の立場に寄りそい共感しやすくなる表現のねらいがある。

エ 主人公の人物像がわかるエピソードを描き、セリフ以外から主人公の心情や背景が読み取れるようにしている。